ZOOMIN

この先生にズームイン

スペイン語が堪能

派遣留学時代は「ドン・キホーテ」の作者、ミゲル・デ・セルバンテスの生まれた街としても有名なアルカラ・デ・エナーレスに暮らし、世界各国から集まった留学生たちと交流を深めた。そこで鍛えた語学力は今も健在。奥さんがスペイン系のため、家での会話はもっぱらスペイン語だとか。

現在の道に進むきっかけ

教員としての成長を求め、自ら志願して海を渡ったニカラグアでは、国立経営経済技術学校で教育経営などに携わった。その経験が、大学院で教育経営を専攻するきっかけに。写真は、当時デスクに置かれていたネームプレートと、木彫りの国章、コップとしても使える木の実をくり抜いた民芸品。

実は甲子園経験者

「教員になったのは、高校野球の顧問になりたかったから」と明言するほど大の野球好きで、高校在任中はずっと、コーチや監督として野球部に関わっていた。指導者時代の最高成績は、浦添商業高校での夏の甲子園ベスト4。心身のコンディショニングに加えて、メディア対応や応援団の取りまとめなどにも奔走したという。

教え子たちとの絆は今も

メッセージで埋め尽くされた寄せ書きボールと、名前入りの泡盛はそれぞれ、高校を離任する時に野球部員とその保護者から贈られたもので、今も大切に保管している。最近はその頃の教え子から結婚式に招かれる機会も増えているそう。「卒業後も、彼らの成長ぶりを身近に感じられるのは幸せなことです」

旅した国は80カ国以上

「ポケットに残ったコインを入れていたら、いつの間にかこんなにたまっていました」。特に印象深い国は、文化が多様で食べ物がおいしいメキシコや、自然豊かなニュージーランド。旅先では地元のお酒を味わうことも楽しみの一つだという。

當山清実（とうやまきよさね） 准教授

学校経営コース

沖縄県出身。平成元（1989）年、大学卒業と同時に商業科教諭となり、沖縄県内の高校で勤務。5年に青年海外協力隊員としてニカラグア共和国に派遣され、国際協力活動に従事。その後、スペイン・アルカラ大学、兵庫教育大学大学院（修士課程・博士課程）で学びを深める。沖縄県教育庁社会教育主事、県立那覇商業高校教頭などを経て、27年から現職。専門は教師教育、教育経営。授業は「教員の社会的役割と自己啓発」「学校危機管理の理論と事例演習」（ともに専門職学位課程）などを担当。

先生に質問！

Q&A

Q 専門の研究内容は。

A 教員には職務遂行能力を高めるために、さまざまな研修を受ける機会があります。各研修がいかに有効に作用しているかを明らかにするとともに、学校経営や教育行政の視点から職能開発を促進する支援の在り方に関する研究に取り組んでいます。

Q 管理職や指導主事向けの研修でも講師を務められているそうですね。

A 最近は学校の危機管理に関する幅広いテーマでの要請が増えています。共通して、全ての教職員に当事者意識を持たせ、関係機関の協力も得ながら予防に努めるべきと強調しています。また、未然防止のポイントに加えて、危機発生時の対応から再発防止策まで、具体的な事例を盛り込むようにしています。

Q 学生への指導で心掛けていることは。

A 学校経営コースの学生は全員が現職教員で、将来、管理職や地域のリーダーとして活躍することを嘱望されています。私自身も現職の時に兵教大大学院に派遣され、現場に戻った後に博士課程に進学したという同じような道を歩んできたので、その経験を踏まえて職場や地域で求められる役割を伝えるようにしています。修了後は多様な経験を生かして、さらなる研究の発展と実践への還元を目指してほしいと思います。高度専門職業人として、教育界の活性化を先導していく存在になってくれることを期待しています。